

コアコア新聞

ワクワク ドキドキ
ソワソワ ゾロゾロ
クワクワ ドキドキ
ソワソワ ゾロゾロ

マラソンカ 馬路おしどりマラソン 高知県安芸郡馬路村

カップルが手をつないで ゴールするほのぼのマラソン

地元では持て余すほどだったユズを独自の特産品に育て上げ、年商30億円以上という一大産業に成長させた高知県の馬路村。この村にはもう一つの名物ともいべき、ユニークなマラソン大会があった。



1 参加者の中にはシニアのランナーの姿も。2 ベアリングのユニフォームを着て走るランナーが多いのも特徴。3 村の名産品「ごっくん馬路村」。

信号機もコンビニもない、人口約1000人の高知県安芸郡馬路(うまじ)村。この小さな村にユニークなマラソン大会がある。

「馬路おしどりマラソン」という名前が示すように、夫婦やカップルが同じコースを走り、最後は手をつないでゴールするというのがルール。

タイムを競うよりも、美しい自然の中を楽しく走りながら、健康の喜びを味わい、お互いの親睦を深めるのが主旨だ。毎年9月に行われ、今年で38回目を迎える。

「3kmと5kmの2つのコースがあり、『にほんの里100選』にも選ばれた、村の中の相名あいな地区を一周します。森林率96%の馬路村では珍しく、急な坂道のない平坦なコースです」

この大会を運営している馬路村教育委員会の濱田裕貴さんはそのように話す。

「カップルで走る画期的なマラソン大会と評判を呼び、年々参加者が増え、昨年の参加申込者は251組でした(悪天候のため大会そのものは中止)。最近ではインターネットやSNSの普及で情報が幅広く伝わるようです。高知市内からの参加者や村民が一番多くはありますが、遠く岩手県からの参加者もいます。35回連続参加という常連の方もいらっしゃいますよ」

ユニークなのはルールばかりではない。賞にも工夫が凝らさ

れている。

1位となった人には(スポーツ振興賞)。(大会賞)は37回大会なら37位の人、その人が帰ってしまった場合には37で10位の人に。村の名産であるユズ飲料「ごっくん馬路村」にちなんで59位、同じく不在の場合には59で14位の人に(ごっくん賞)が。他にも最高齢カップルに(長寿おしどり賞)、最年少カップルに(ヤングおしどり賞)など、一位にならなくても選ばれるよう、たくさん賞が用意されている。

また、こうした特別な賞に選ばれてなくても、参加賞として全員に馬路村特産品の「木のうちわ」や「木のメモ帳」などが配られるのも参加者にはうれしいところだろう。

大会当日は小学校の鼓笛隊が演奏をするなど、村民の熱い応援も大会を盛り上げる。



4 「にほんの里100選」にも選ばれた相名地区を走るコースが人気。5 雨に見舞われることも多いが、中止になったのは過去2回だけ。

「大会前日に馬路温泉の河原で、先着20名を招待して前夜祭も開催しています。募集をかけた3日後にはキャンセル待ちの状態になるほどの人気で、参加した方からは『馬路村名物の田舎寿司がおいしかった』『涼しい河原で楽しい時間だった』などの感想をいただき好評です」

多彩なユズ製品で年商30億円を超え、全国の過疎地の輝ける星でもある馬路村。「馬路おしどりマラソン」がこの村にさらなる活気を与えていることは間違いない。

「今年は9月16日に開催予定です。前夜祭には村のうまいもんをどっさり用意していますので、ぜひご参加ください」

お互いの絆を確かめたいマラソン好きのご夫婦やカップルの方は、大会の内容をチェックしてみてください。

(丸山貴末子)